

花葉会を変えていくのは若き世代の皆さんです

山田 幸子

私、『花葉』32号をもちまして花葉編集人を卒業します。会員の皆様および広告掲載にご協力くださいました関連企業の方々に深く感謝しております。

『花葉』が創刊されたのは1982年(昭和57年)。花葉会そのものがスタートしたのはかなり前のようですが、花葉会の活動が活性化し、現体制が整ったのがこの頃からのようです。創刊号を見ると、「会員相互の親睦、研鑽、情報交換」を目的として花葉会を一つにまとめた。その力で「花卉園芸界の発展」に寄りたいという、幹事一同の情熱が伝わってきます。

それが花葉会会員のニーズでもあったのでしょうか。ちょうど花卉産業界が大きく発展する時期でもありました。『花葉』各号をめくると、情報満載、さまざまな記事が掲載されています。そしてサマーセミナーを開催し、毎年盛会。花葉会を運営する幹事会の、花葉会会員の“力”を感じさせるものがありました。

私が『花葉』にかかわるようになったのは1993年頃から。初代編集人の植村猶行先輩から編集の手ほどきを受け、一人立ちした1996年に会長が横井政人名

誉教授から安藤敏夫名誉教授に交代。その後、幹事会のメンバーも徐々に交代を繰り返して花葉会を運営。

しかし、近ごろは総会は閑散。サマーセミナーの参加人数も思わしくなく、試行錯誤し、ついに今年は開催を見送ったほどです。いつのまにか幹事会は会員の、業界のニーズを見失ったのかもしれない。

さて、昨年の秋の総会で会長が三吉一光教授に交代。新たな会長の下、花葉会がどう変化するか、節目の時にきているようです。『花葉』編集人も交代の時、若い世代の新鮮な視点で花葉会会員のニーズを把握して、『花葉』を編集してほしいとの思いからです。幸いにも若手幹事から手が挙がりました。

若き花葉会会員の皆さん、花葉会の活動に積極的に参加してみませんか。まず、『花葉』に寄稿する、あるいは交流会や総会、サマーセミナーなどに参加することから始めて、花葉会の運営に参加し、自分たちのニーズにあった花葉会を育てていきませんか。そして花卉産業界の発展に結びつけていきませんか。変えていくのは若き世代の皆さんの情熱です。

<p>花葉</p> <p>2013 NO.32</p> <p>目次</p> <p>禁無断転載</p>	私の提案 花葉会を変えていくのは若き世代の皆さんです.....	山田 幸子 (1)
	日本植物園協会の保全活動と日本版ナショナルコレクション構想.....	倉重 祐二 (2)
	植物遺伝資源をめぐる最近の状況.....	石川 君子 (6)
	日本種苗協会の取り組みと私の役割.....	平山 祐嗣 (10)
	オランダ情報②花にまつわる展示会.....	対馬 淳一 (14)
	表紙解説 <i>Portulaca cryptopetala</i> Sp.	國分 尚 (17)
	2013 国際アジサイ会議日本大会レポート.....	西原 彩子 (18)
	戸定会の方々と私.....	古川 仁朗 (22)
	館山市における花壇作りの近況と花雑感.....	林 角郎 (26)
	自叙伝抜粋 盆栽・ヨーロッパ奮戦記.....	熱田 健 (30)
	日本の食文化を支えるつまもの生産.....	小田 剛裕 (38)
	第1回花葉会東日本エリア交流会レポート.....	山口 まり (41)
	第1回中部・東海地区交流会報告.....	上田 義弘 (44)
	花葉会海外園芸調査報告 スリランカの原生植物を訪ねて.....	長澤 哲哉 (46)
	花卉園芸学研究室レポート 新生柏の葉花研究室のご紹介.....	黒沼 尊紀 (50)
園芸別科花組レポート 花葉界を目指し奮闘の日々.....	土田 耕一 (51)	
花葉会総会 (52) 花葉会賞受賞者紹介・記念講演 (56) 花葉会会則・役員名簿 (63)		